

3. 中期計画

3.1 中期計画における平成26年度目標と実績

3.1.1 年次目標の概略（石川県公立大学法人 平成26年度計画案 概要版より）

計画策定の基本的考え方

■平成26年度は、引き続き「学生満足度の高い教育の提供」「地域貢献活動の充実」「学生生活にむけた取組活動の充実」「弾力的・機動的な法人運営」の4つを柱に据え、実践に取り組み、
 ■第1期中期計画（6年間）の第4年度目であり、折り返しにかかる年であることから、確実に中期計画を達成できるよう、現在までの進捗状況を踏まえた取り組みをより具体的に計画に反映させた。
 ■平成26年度は、この計画を確実に実行していくとともに、高等教育を取り巻く環境変化を自ら分析しながら、不測の対策を講じていく。

看護大

カリキュラム改革による社会人基礎力の養成 (No.23-1)

地域へのボランティア活動等を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」の新設などカリキュラムの改革を行い、自学自習、異学年交流をより一層促進する。

学習環境の向上 (No.40-1,40-2,41-1,43-2)

○学生が学習に関する相談を行いやすい体制の整備 ○学生と学長との懇談会
 ○学生へのニーズ調査 ○優秀な学生への表彰
 などを行い、学生の意欲を高めて、学習環境を向上させる。

教員評価 (No.36-1)

これまでに、教育活動の維持向上を図るため、教員評価を試行してきており、各教員から提出された目標シートを基に、第一次評価者となる教員が評価をしてきている（一次評価）。今年度は、更に第一次評価者が行った評価の適切性について、学内の教員評価委員会による評価（二次評価）を試行する。

地域貢献活動の強化 (No.62-1,64-1)

地域のニーズに応える教育研究を行い、また、学生が地域社会に出てから役立つ学びに力を注ぐべく、大学が全学的に地域貢献活動に取り組むプログラムを検討する（文部科学省「地（知）の拠点整備（COC）事業」へ応募）。
 これまでにかはく市や能登町と連携した取り組みを行ってきたが、26年度は更に宝達志水町との連携を検討する。

感染管理認定看護師教育課程の開設 (No.63-1)

前年度設置した看護キャリア支援センターの事業の一環として、北陸初となる感染管理認定看護師教育課程を開設し、現場のリーダーとなる看護職者を育成する。
 ※ 看護キャリア支援センター
 看護職のキャリアアップとキャリア維持につながる研修や人材養成を通じ、地域医療の質の向上に資することを目的とする。

両大学共通・法人の運営

<p>国際化の推進 (No.160-1)</p> <p>研究成果の情報発信、海外大学との交流、留学生の受け入れなどを促進するため、両大学ともに英語版ホームページの充実強化を図る。</p>	<p>広報活動の強化 (No.161-1)</p> <p>(1) 北陸新幹線開業に向けた取り組み 受験生の更なる取り込みに向け、北陸新幹線沿線各県において、広報活動を実施する。 (2) SNSの活用 ツイッターやフェイスブックなど学生に汎用的なSNSの活用について検討を行う。</p>
<p>経費の合理化 (No.134-1)</p> <p>旅費の計算事務について、計算事務を簡素化するとともに、業務を法人本部に集約させて、合理化を図る。</p>	<p>危機管理体制の強化 (No.187-1)</p> <p>(1) 携帯版大地震対応マニュアルの配布 全学生、全教職員に携帯用のマニュアルを配布する。 (2) 危機管理ガイドラインの作成 地震や火災のみならず、大学における危機全般について、その対応を体系的に整理した危機管理ガイドラインを作成する。</p>

3.1.2 平成26年度実績の概略

(石川県公立大学法人 平成26年度実績 概要版より)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

【特筆すべき内容】

- 1 学部課程の充実 (No.2-1,NO.15-1,23-1,28-1,69-1)
 - (1) 「ヒューマンヘルスケア」科目の開設
サービスラーニング(※)や異学年交流をより一層推進するため、地域のボランティア活動等を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」を開設した。
※地域のニーズを踏まえながら、社会奉仕活動を体験する学習法
 - (2) フィールド実習の実施
地域で生活する人との関わりを通じて、地域の暮らしや文化等の理解を深めるとともに社会人の基礎力を育成するため、能登町と連携し、民泊を取り入れたフィールド実習を実施した。また、かほく市と連携した健康増進活動を通して、地域住民との交流を図った。
 - (3) 国際交流の推進
国際看護演習(夏期アメリカ研修プラン)に学生21名が参加するとともに、韓国全北大学看護学部と新たに覚書(MOU)を締結した。
- 2 大学院課程の充実 (No.16-1,17-1)
 - (1) 多角的な授業展開
学生に保健・医療・福祉分野の最新情報や知見を提供するため、ワシントン大学の教授を招聘するなど各専門分野で実績のある外部講師を交え、オムニバス形式の講義(担当教員が毎回、若しくは複数回に一回替わる授業方式)を行い、多角的な授業を展開した。
 - (2) 新たな専門看護師教育課程の適用
専門看護師の実践能力向上に向け、がん・老年・地域看護の3分野において、臨床現場での実習を充実する等、新たな教育課程(26単位から38単位に増加)を開始した。
 - (3) 実習施設の拡大
専門看護師教育課程の更なる充実を目指して、北陸3県の看護部長懇談会で各施設における実習受け入れ効果等について意見交換を行うとともに、本大学院修士生のネットワークを活用し、今後の実習施設拡大に努めた。
- 3 生涯学習支援の推進 (No.63-1)
 - (1) 「感染管理認定看護師教育課程」の開設
看護キャリア支援センター事業の一環として、北陸初となる「感染管理認定看護師教育課程」を開設し、現場のリーダーとなる看護職者を育成した。7ヶ月間にわたる教育課程を順調に進行させ、30名の修了生を輩出した。
 - (2) 看護職の生涯学習支援サービスの実施
訪問看護師に対するトレーニングや、看護実践力向上セミナーとして、各種事例検討会を実施した。また、石川県および富山県からの依頼により、保健師新人研修の講師を派遣した。

項目別評価の状況



項目	IV	III	II	I	計
教育	7	56	0	0	63
研究	0	11	0	0	11
地域貢献等	1	13	1	0	15
計	8	80	1	0	89